

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	和歌山県		代表者名	岸本周平	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	公営企業課	連絡先電話番号	073-441-3314
担当者役職	主任	担当者氏名	平井茂伸	連絡先E-mail	
住所	640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署		連絡先E-mail	
担当者氏名		連絡先電話番号			

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	和歌山県工業用水ユーザー支援		
概要	会員企業（主に製造業）を対象にICTの導入を促進するため、経営改善、生産性向上につながる情報技術の知識や導入事例を講演していただきたい。				
支援を求める分野	AI活用 働き方				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	207k	令和6年11月12日	講演	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和6年11月29日	講演(実地)	15時30分	17時15分	
				活動時間（分）	105
2-2.	会場名	和歌山県データ活用推進センター会議室		最寄駅	南海和歌山市駅
派遣場所	所在地	和歌山県和歌山市東蔵前丁3-17南海和歌山市駅ビル5階		最寄駅からの交通手段	南海和歌山市駅ビル5階の和歌山県データ活用推進センター内にあります。

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	栗城 和也				
評価	大変よい				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	・チャットGPTなどの実例を見て参考になりました。そして、注意点の説明もあった。 ・活用事例の紹介、スマートグラスのデモは、非常に分かりやすかった。 ・スマートグラスを利用した技術伝承の例をもう少し聞きたかった。 ・参加者の会社の規模等を事前に調査した上で、仕事に利用できる内容としてくれた。				
アドバイザーへの要望事項					

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	24人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	10		14	

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	事業の中で、「見学、視察及び研究会、懇談会の開催」を行っており、毎年1回、様々なテーマで研修会を開催しています。今までは県、市町村の方による地域活性化、DXの講演会などを行ってきました。ユーザー企業からは、AI、DXなどの研修希望が出されています。また、企業のICT導入による経営改善の余地があると思われます。本派遣を活用することで、企業の意識改革、経営改善、生産性向上につなげたい。				
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	企業がAI・DXに興味・関心を持つこと。また、それらが取っ付きにくいものではないことを認識すること。職員が企業からの要望に対してサポートするための、知識等を持つこと。 昨年度、本制度を活用したが、実際の導入へのつなげ方が見えていないため、具体的な成果に繋がっていないのが現状です。企業のICT導入による経営改善を促進するために、継続して本派遣を活用することで、企業の意識改革、経営改善、生産性向上につなげたい。				

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	1 DXの本来の意味(ご自身及び貴国が考えるDXとは?) 2 デジタルを活用した業務改善事例(AI利用による省力化、スマートグラス利用による技術伝承、スマートランシーバによる工場内情報伝達の強化、IoTセンサによる製造ラインの見える化) 3 最近のデジタル技術に関するデモンストラーション(軽量型ウェアラブルカメラ、生成AI) 4 自社でDXを進めるために大切なこと(最初のSTEPは経営陣によるビジョンの作成、外部人材の積極活用)	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	生成AIなどが非常に簡単に使うことができるのを知り、AI・DXへの興味が高まった。DX導入の注意点を知ることができて、今後の各社への導入が期待される。多数の事例を知ることにより、様々な状況への導入が可能であることを認識した。外部機関・人材の活用が大事なことを知ったことによるAI・DXの活用促進。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	DX推進に対する経営陣の意識改革。 経営ビジョンと現状認識からなる変革すべき課題の抽出方法。 実際の導入に向けた知識・技術サポートと外部機関との連携強化。 職員のサポート力向上。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 集計結果を添付	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	④予算以外で、今後取組む事項がある
4-4. 事業の最終的な目指す姿	企業のニーズに応じて適切なサポートを行うことで、企業の持続的成長につなげる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

掲載許可 掲載可

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。



